

白山市立松任中川一政記念美術館 館報

獨行道

独り行く道

— 第三十四号 —

(令和七(二〇二五)年度号)



中川一政愛用品
マジョリカ陶器 色絵騎士図壺
(φ 10.8×H20.2cm 16~17世紀)



《マジョリカ壺の薔薇》
(1962年 41.7×26.0cm)

それから神戸へ行った時、丈七寸ばかり、マジョリカ壺を買った。(中略) 騎士の顔が丸い輪廓の中にかいてある。これを何枚か描いた。

- 「陶器について」『うちには猛犬がある』1963年 筑摩書房より

令和7(2025)年度レポート

◇企画展

春季テーマ展

「中川一政 画と額縁―響き合うデザイン―」

会期…3月4日～6月1日

中川一政は80歳代を迎える頃から、画を取り囲む額縁も自ら手掛けるようになりました。自身の画が、既製の額縁では納まりきらなくなつたと感じるようになったためでした。

「薔薇」や「向日葵」など油彩画の額縁には、木製のフレームに色を付けたリ、線を描いたりしたもの、また彫りを施したものや、文字を書いたものなどがあります。日本画の額装では、画と額縁の間にあてるマットに、彩色や線描、また文様をかたどった自作の印を押し連ねたものなどがあります。

一見奇抜に感じられる額縁も、画と合せて見ていると、絶妙のバランスで互いを引き立て、響き合うデザインであることに気付きます。

本展では、自作の額縁が用いられている作品を中心に展覧するとともに、デザイン感覚がいかに本物の装丁にも注目して紹介しました。



「鹿ノ子百合」1987年

夏季テーマ展

「中川一政 画をかくことは生きること―〈向日葵〉を中心に―」

会期…6月4日～8月31日

中川一政は、独自の画法を模索しながら97歳まで描き続け、まさに「画をかくことは生きること」を体現した人でした。

上手下手という概念にとらわれることなく、形が整っていることよりも「呼吸をしている画」を描くことが大事だと考えていた彼の画からは、生き生きとした生命力が感じられます。

一政が晩年まで好んでモチーフとした向日葵は、彼のアトリエの庭に数多く植えられ、その花が咲き誇る限られた季節には、来客を拒んで懸命に描いたと伝わります。こうして生まれた〈向日葵〉の画からは、彼の「かきたい」という情熱が伝わってきます。

本展では、向日葵の油彩画を中心に公開し、一政の生きる原動力となった制作への情熱を紹介しました。



「向日葵」1987年

秋季テーマ展

「中川一政の陶芸―茶道具の魅力―」

会期…9月6日～11月30日

中川一政は、絵画だけにとどまらず書や陶芸、文芸など多岐にわたる創作活動を展開しました。陶芸は70歳代半ばを過ぎた頃からの仕事です。

陶印制作から始まった陶芸は、茶碗や陶板画、そして茶陶へと広がりを見せます。茶道具を作るうちに、次第に「お茶」への興味が高じて、90歳代には幾度も茶事を催すようになりました。床の間に自作の書画を掛け、自身の制作した茶道具を用いて人をもてなし、自らも愉しんだのです。制作は、茶碗だけでなく、花入や水指、茶入、そして風炉や釜にまで及びます。いずれも雄々しく、ときに型破りではありますが、そこに一政が希求した稽古事とは一線を画す「婆沙羅の茶」への眼差しが感じられます。

本展では、絵画や書作品と併せて、こうした茶道具を中心に展覧し、とらわれない境地で遊ぶが如くの中川一政の陶芸の世界を紹介しました。



上…「唐津皮鯨茶碗(久方)」1983年頃
下…「もなの釜」1989年



冬季テーマ展

「中川一政の画と書―生きた線のカ―」

会期…12月3日～令和8年3月1日

中川一政の絵画や書の表現に共通するのは、力強く生き生きとした線です。

一政は、一筆で表現できたら再び筆を重ねる必要はないとの考えのもと、一筆一筆を大切に作品を作り上げました。絵筆や書の筆遣いを剣術の刀に重ね、最初の一太刀で勝負を決する真剣勝負の気概で描いたのです。こうした姿勢は、洋の東西を越えて見るものに伝わり、生前パリで開催された展覧会では、彼の描く油彩画の線に書道や武道の気合を見出した人もいたと伝われます。この気合が、線の力強さや生命感を生み出しているのです。

どの一筆も、揺るぎなくそこに存在し、画や書の骨格を確かなものにしていきます。生涯をかけて、生きている画を追求した一政の画を支えたのは、やり直しはないという気合が生んだ「生きた線」であるとも言えます。

本展ではこうした生きた線の力に着目し、絵画やデッサン、書などを展覧しました。



「駒ヶ岳」1976年

◇イベント・講座等

講座「中川一政文集を読む―『近くの顔』―」

開催日…6月21日、8月16日、10月18日、12月20日、令和8年2月21日 全5回

中川一政の著作をおとして彼の思想や生き方に迫る文集通読会です。今年度は、『近くの顔』(1967年 中央公論美術出版)を通読しました。



本書には、一政の画の仲間や友人、家族など身近な人について書いた人物記が収録されています。それぞれの文章からは、同時代を生きた人々の姿が生きてきと浮かび上がると同時に、一政自身の芸術論や生きざまも垣間見せてくれます。(参加者…のべ52名)

夏休みキッズプログラム 「一政に挑戦!油絵を描いてみよう」

開催日…7月26・27日



小・中学生を対象にした油絵体験プログラムで、毎年好評のため本年より2日間開催しました。美術館での作品鑑賞の後、市民工房うるわしにて絵を実作。薔薇や向日葵、マジョリカ壺や果物といった中川一政が好んで描いたものをモチーフに、思い思いに制作に取り組みました。(参加者…23名)

秋季テーマ展関連企画 「触ってみる鑑賞会&陶芸ワークショップ」

開催日…9月13日

ワークショップ講師…高森絢子さん(陶芸家)
展覧会「中川一政の陶芸―茶道具の魅力―」に合わせて、中川一政の陶芸作品に触れることのできる鑑賞会と、陶芸ワークショップを開催しました。

まずは美術館で展覧会を鑑賞した後、展示中の茶碗をケースから出し、参加者が一人ずつ実際に触ることのできる時間を設けました。ガラス越しではわからない重量感や細部の造りなどをじっくりと味わいました。



講師の先生に教わりながら自由に作り、陶芸に親しむ一日となりました。できあがった作品は、後日美術館別館で展示しました。(参加者…18名)



上段右…触ってみる鑑賞会の様子/下段…別館での作品展の様子
上段左…ワークショップの様子

0歳からの家族鑑賞会「ミュージアム・スタート」

開催日：10月19・20日

乳幼児から小学生までのお子さん、その家族を対象とする鑑賞会では、富田めぐみさん（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事）を講師に迎え、アートを通じた家族のコミュニケーション体験を提供。「陶芸」をテーマの一つとした展示会を鑑賞しました。今回は展示室での鑑賞会の前に、中川一政の陶芸作品に触れる機会を設けました。「ざらざらしてるね」「何が描いてあるかな」など、家族で会話する様子が見られました。展示室では薔薇の作品を観て、花の線の部分が「迷路みたい」と教えてくれる子や、自分のお気に入り作品と出合い、ずっと見つめる子も。

0歳5か月から小学2年生までの子供たちと、その家族が参加し、それぞれが年齢に応じて楽しむ鑑賞会となりました。（参加者：17組48名）



鑑賞会の様子



中川一政バースデイウィークイベント

開催日：献花台設置

令和8年2月5日

15日



美術館句会

俳人・大高翔さんをお迎えして（7日）



俳人・大高翔さん（「藍花」主宰）を講師に俳句会を開催しました。館内の中川一政作品や愛蔵品を鑑賞して詠んだ俳句を、互いに選句し、発表。最後に講師が講評を行いました。今回は初心者からリピーターまで幅広い方が参加し、様々な視点から句作を楽しみました。（参加者：17名）

【高得点句 五句】

後向くまえ向く薔薇もをかしけり 育子
立春や千里を駆ける馬と合ふ 春美
今日のいま散るまで知らぬ雪椿 純一
異次元に赤く咲きたる冬椿 茂樹
向日葵は挨拶上手私へも 久美子
よく笑ふ山吾を励まし生かしむる 翔

◆新収蔵資料

（令和7年3月〜令和8年2月収蔵分）

〈中川一政作品〉

墨彩画賛「船上看山図」 1939年

（中川達郎氏寄贈）

〈図書資料〉

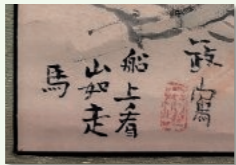
与謝野晶子選歌集「白光」

1908年 新潮社／一政歌収録（購入）

研究余禄―新収蔵品より―

墨彩画賛「船上看山図」

1939（昭和14）年作 軸装／本紙25・5×34・8cm、外寸89・5×45・4cm



中川一政46歳の作。本紙左下には「一政写（一政印）船上看山如走馬」とあり、蘇軾（北宋の政治家、画家）の七言律詩「江上看山（江上に山を看る）」の初句「船上看山如走馬（上山を看れば走馬の如く）」から着想した画賛であることが分かる。軸装を収める箱が附属し、そこには一政とは別の筆で「昭和十四年春」とある。昭和14年の3月、46歳の一政は鹿島龍蔵（鹿島建設2代目・岩蔵の息子）と自身初の中国旅行を果たし、各地を巡遊している。本作の制作時期と重なることから、長江急流域に広がる情景や、その遠景の折り重なるような山々は、あるいは一政が実際に目にしたものかもしれない。本作は、早い筆遣いながら、「走馬の如く」過ぎ去る長江兩岸の景色が素早く描き留められた画が、漢詩の世界と渾然一体となり、臨場感と豊かな詩情を感じさせる佳作である。同時に、中川一政の戦前作、画業中期の作としても稀少性が高いと言えよう。

与謝野晶子選歌集「白光」



1908（明治41）年6月1日発行 新潮社／四六判／199頁／序歌5首と選歌991首収録、うち一政歌3首（ただし、重複掲載あり）

中川一政 城のもと月光ほのにさす時を闇の散ると見る黒き海

中川一政 砂染める街の柳に遠火事の光にはひぬゆふぐれの霧

10代から万葉集に親しみ、歌作も始めた中川一政は、旧制錦城中学校（東京・神田錦町）時代に新聞や雑誌に歌を投稿した。そうして発表された歌が与謝野晶子によって選ばれ、本書に収録されたことされる。本書は同じ晶子による選歌集「黒髪」（1907年）に続き、相次いで刊行されたものであることから、選集された歌は概ね1907年から8年にかけて発表された歌と考えられる。また、一政が自作の随想と歌をまとめた「断片」（1910年）には、7年から10年までの歌309首が収められているが、この中に掲出歌とほぼ同じ2首がある。「1907年」と制作年が明記されていることから、一政14歳の時の作となる。

ただし、「断片」収録の「砂染める」は推敲が行われ下句は「焰まよひぬ秋の夕ぐれ」と改稿されている。「白光」収録時の「光にはひぬゆふぐれの霧」の万葉調の表現からの変化が見てとれる。「断片」の中で、一政が1909年が自身の歌の転換期であったと述懐していることを踏まえても、10代後半に迎えた歌人とし

中川一政バースデイコンサート（14日）

中川一政の誕生日当日に、丸山萌音揮さん（ヴァイオリン）と岩谷弦さん（ヴァイオリン）を迎え、館内館でコンサートを開催しました。



今年は「直感、情熱生命」をテーマに、中川と同時代を生きた音楽家や生前に好んだバッハなど、全7曲が演奏されました。来場者は作品と音楽を楽しみながら、中川に思いを馳せる時間となりました。（来場者：72名）

◆学校等連携事業

対話型鑑賞受け入れ

市立松任小学校 6年生93名 5月20・21・23日
市立東明小学校 6年生100名 7月2・3日
市立北陽小学校 2年生74名 10月22日
はくさんひかり園 5歳児26名 11月28日
認定こども園恵愛 4歳児40名 2月4日

鑑賞授業受け入れ

金城大学短期大学部美術学科 62名 5月16日

◆連携企画

スギナミ・ウェブ・ミュージアム

公開中



月刊絵手紙2026年1月号

特集「中川一政 自分の滋養を探す」掲載

て深化の跡といえよう。

余談であるが、本書には「大貫かの子」の歌も確認できる。歌人・岡本かの子の旧姓であり、当時気鋭の歌人の一人として『明星』や『スバル』に歌を発表していた。この後一政は、かの子を通して岡本一平に出会うこととなることを思うと興味深い。

トピックス

松任中川一政記念美術館リニューアル改修計画



令和8年秋に開館40周年を迎える当館のリニューアル改修計画につきましては、令和8年度に実施設計を行い、令和9年度中に着工する予定です。工事に伴う休館につきましては、詳細が決まり次第、改めてお知らせいたします。

8年度は通常通り開館します。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

広島県・筆の里工房「筆を手」

白山市立松任中川一政記念美術館所蔵作品展

会期：令和8年3月20日〜5月10日



熊野筆で知られる広島県安芸郡熊野町の「筆の里工房」にて、中川一政の展覧会が開催され、当館から62点を出品します。一政の愛用道具の一つに熊野筆があった縁から企画されました。多くの方に来場いただき一政の魅力に触れる機会になればと思います。詳細は主催者ホームページ等で確認ください。

展覧会ホスター

第31回中川一政記念 絵画公募展

会期：令和8年1月15日～1月25日
会場：市民工房うるわし

昨年の第30回の節目に改称を行った絵画公募展に、今年度は石川県内の小学生から645点の作品が寄せられました。表彰式は、1月17日に松任学習センターにて行われ、賞状と記念品が授与されました。

表彰式（松任学習センター）

入賞された方々は次のとおりです。
（※学年は当時、敬称略）

- ▽最優秀賞
小学生低学年の部
白山市立松任小学校3年 河上 希紀
小学生高学年の部
金沢市立緑小学校5年 池田紗由稀
中学生の部
白山市立北星中学校3年 清水 悠那

- ▽テーマ賞
花・風景画賞
白山市立松南小学校5年 濱東 初夏
動物の画賞
白山市立松南小学校1年 榊原 円葉

- ▽優秀賞
金沢市立西小学校2年 宮腰万有花
能美市立浜小学校2年 東出 結月
金沢市立小坂小学校4年 北本 礼子
金沢市立小坂小学校4年 古田 旭
加賀市立東和中学校1年 高田 和果
白山市立光野中学校2年 大池 優心
白山市立鶴来中学校2年 花村 和奏
金沢大学附属中学校3年 田中 美優
水上こほる

- ▽優秀校
白山市立松任小学校
白山市立白嶺小学校
金沢市立小坂小学校
白山市立北星中学校
内灘町立内灘中学校

- ▽奨励賞
小学生 川本くらら／西山世莉／和田陽菜／綿川陸人／村本紗弥／朝井美織／大池愛梨／高木翔（以上1年）／北本真史／谷桜輔（以上2年）／川原志月／松本心葉（以上3年）／多川詩乃／中田祥都／中西奏太／木谷吉宏／上濱丈（以上4年）／常少凜音／若杉竣介／南井穂乃花（以上5年）／吉川稀子／山瀬優詠／山下航（以上6年）
中学生 吉田紗蘭／中村葉音／本川颯馬／金本英大／高尻結／本彩愛／木場瑛（以上1年）／南部結菜／坂井海王／竹下瑠香／細川美結／高井結衣／澤野井愛菜（以上2年）／榎戸里亜／矢木里

- 奈／辰川茜／中井彩希子／北野那奈／井上久留美（以上3年）



第31回展の様子（市民工房うるわし）

- 最優秀賞 小学生低学年の部
「夏のかがやくひまわり」

松任小学校3年 河上 希紀



「夏のかがやくひまわり」

ひまわりの絵をかいたとき、みてくれた人があかるいきもちになつてくれたらいいなと思つてかきました。

下書きにそつて絵の具でかくのがむずかしく、はなびらの先っぽがとんがっているところは気をつかいました。まんなかのくろっぽいところも上手にかくのがむずかしくて、何回もかさねぬりをして工夫をしました。葉っぱの形もむすかしくて、お手本を見ながらがんばりました。

かきあげたとき、ひまわりが本当にそこにあるみたいに見えて、とてもうれしかったです。コンテストでさいゆうしゅうしょうをとれたとき嬉しかったです。びつくりしたけれど、自分のがんばりがみとめられたよつて心がほかほかしました。これからも、みた人がえがおになるような絵をかいていきたいです。

▽上位入賞作品を、制作時の想い等を綴つた作文と共に紹介します。



- 最優秀賞 小学生高学年の部
「のとの魚たち」

緑小学校5年 池田紗由稀



「のとの魚たち」



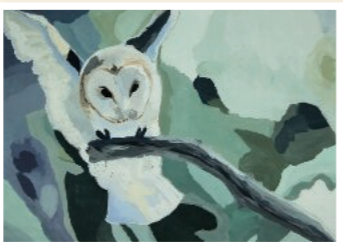
能登半島地しんがおきる前に家族で行つたのと同じ水族館の魚たちをモチーフにして、能登の美しい風景を思いつかべながらこの絵をかきました。

水族館の水そうを見たとき、とても美しく感動しました。小さな魚やお魚ばかりが大変でした。けれど、こまかくかくことができたのでよかったです。魚一匹一匹の大きさのちがいを水そうの中をおよぶ魚で表現できたと思います。

能登半島地しんのおきた日は私の誕生日でした。たん生日とお正月でわくわくしていた気持ちが、こわさと不安でいっぱいになりました。1月1日がくるとこわくなるかもしれないと思いました。けれど、家族旅行で行つた能登での楽しい思い出やきれいな海や山の風景を思い出すと少しこわさがつまりました。この絵を見た人たちが能登の楽しい思い出や美しい風景を思い出してくれたらうれしです。

- 最優秀賞 中学生の部
「メンフクロウ」

北星中学校3年 清水 悠那



「メンフクロウ」



メンフクロウは、世界各地で幽霊や死の象徴といった不吉なイメージを持たれることがあります。しかしその一方で、農作物に害を及ぼすネズミを捕まえることから、知恵や幸運のシンボルとして大切にされてきました。私はこの二面性に惹かれ、人々に幸運を運びたいという想いを込めて、この作品を制作しました。工夫した点は二つあります。

一つ目は、今にも飛び立ちそうな姿を描くことで、メンフクロウが持つ力強さや躍動感を表現した点です。

二つ目は、メンフクロウのシルエットを薄い白色で縁取り、背景と同化しないようにすることで、見る人の視線が自然と主役に向かうよう工夫した点です。この作品を通して、見る人それぞれがメンフクロウに新たな印象を持ち、前向きな気持ちになつてもらえたらうれしいです。

- テーマ賞 花・風景画賞
「初夏」

松南小学校5年 濱東 初夏



「初夏」



私がこの絵をかいたとき、三つあります。一つ目は、山の凹凸感です。山は、見える場所によって色の濃さがちがうところがあります。だから鉛筆の濃さに気をつけました。

二つ目は、かくむきです。木や山をかくとき、むきをそろえないと不自然な木になつてしまつてから工夫してかきました。

三つ目は、色の使い方です。花と葉だけを鉛筆で色をぬりました。手前は濃く、おくはうすくしました。花は、黄色からオレンジの色をぬりかさねて工夫しました。花を目立たせたことで、花のまわりは、黄緑色や灰色、黒にしました。全て鉛筆でかいて目立たせるようにするといふ絵をかいたことがなかつたので、大変で、とてもかいていて楽しかつたです。そして、このかきかたで他のものもかいてみたいと思いました。

- テーマ賞 動物の画賞
「にじいろのたこ」

松南小学校1年 榊原 円葉



「にじいろのたこ」



わたしは、にじいろのたこのえをかきました。たこのあしには、あかいてんてんをかいて、きゅうばんらしくしました。うみは、ただの「おお」だけじゃつまらないとおもつて、しるやむらさきのえのべもつきました。そうすると、うみがながれているみたいになりました。「なみ」や「すなはま」は、ひかっているようにしたかったので、えのべをとばしてかきました。きらきらしてきれいになつてうれしかったです。たこの目は、いきいきして見えるように、いろをまかせてかきました。

このえがえらばれて、とてもうれしかったです。たくさんかかえてかいてよかったです。

令和8(2026)年度

インフォメーション

※都合により変更の場合があります。
最新情報を館ウェブサイトや電話等で確認の
うえ来館されることをお勧めいたします。



松任中川一政記念美術館開館40周年記念特別展

「没後35年 中川一政展(仮称)」
会期：9月5日(土)～11月29日(日)
オープニングコンサート 9月5日(土)
記念講演会 9月27日(日)

講師：真鶴町立中川一政美術館学芸員 蔵本敬大氏
このほか、会期中に美術館句会、ギャラリートークなどを予定しています。詳細は決まり次第、チラシや館ウェブサイト等でご案内いたします。

企画展(所蔵作品テーマ展)

前期テーマ展

「中川一政の薔薇 描く悦び―晩年作を中心に―」
会期：Ⅰ期 3月5日(木)～5月31日(日)
Ⅱ期 6月3日(水)～8月23日(日)

後期テーマ展

「中川一政 書と墨蹟コレクション」
会期：12月3日(木)～令和9年3月28日(日)

第32回 中川一政記念絵画公募展

対象：象：石川県内の小中学生

テーマ：自由(花・風景・動物・家族など)

募集期間：8月中旬～11月15日(日)

作品展：9年1月14日(木)～1月24日(日)

表彰式：1月16日(土)／松任学習センター

市民工房うるわし

中川一政バスデイウィークイベント

献花台設置期間：令和9年2月5日～14日

バスデイコンサート 2月14日(日)

講座・ワークショップ等

中川一政文集を読む

日時：6月20日(土)、8月22日(土)、

10月17日(土)、12月19日(土)、

9年2月20日(土) 11時～

夏休みキッズプログラム「二政に挑戦!油絵体験」

日時：7月25日(土)、26日(日) 全日

対象：小学4年生～中学生/定員：各10人程度

0歳からの家族鑑賞会「ミュージアム・スタート」

日時：10月18日(日)午後、19日(月)休館日 午前

対象：0歳から未就学児とその家族

講師：NPO法人赤ちゃんからのアートフレンド

シップ協会

対話型鑑賞のススメ

未就学児から児童生徒を対象に、対話型の鑑賞を随時実施しています。解説を聞くのではなく、子供たちの主体的な発言と対話から鑑賞を深めるプログラムです。気軽にお問い合わせください。

令和8年度友の会 会員募集

特典

入館料フリー(特別展は別途必要)、企画展ほか各種催し案内、別館喫茶室優待、館報の送付等

年会費 一般 1000円、高校生 500円

期間 令和8年4月～令和9年3月

利用案内

※令和8年4月より、開館時間が変更となります。

開館時間 午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)

休館日 毎週月曜日(祝休日の場合は次の平日)

及び年末年始(12/29～1/3)

展示替え等の臨時休館(6/2、

8/25～9/4、12/1～2)

入館料 一般 200(100)円

高校生 100(50)円

※特別展は別途設定する場合があります。

※()は20名以上の団体料金です。

※障がい者手帳を提示の方とその介護者1名は無料です。

※毎月第3日曜日(家庭の日)は、市民の入館が無料です。

「交通アクセスのご案内」

電車：JRいしかわ鉄道松任駅

下車(南口)徒歩1分

松任駅へは普通列車で金沢

駅から約10分、小松駅から

約20分

東京方面 北陸新幹線利用

約2時間30分

大阪方面 特急サンダー

バード・北陸新幹線利用約

2時間30分

名古屋方面 特急しらかぎ・

北陸新幹線利用約3時間

飛行機：小松空港から車で松任方面

約40分

バス：北鉄バス松任停留所下車、

松任駅方向へ徒歩3分

車：北陸自動車道 白山ICより

白山市街・松任駅方向へ

約10分

駐車場：無料駐車場8台

後記

「薔薇挿さむマジヨリカ陶器騎士図壺」

NHK全国俳句大会の選者も務める井上弘美さん(汀)俳句会主宰)が昨年6月に当館で詠まれた句です。白山市は俳句の里を標榜しており、美術館の近くにある「千代女の里俳句館」は、俳句を通じた交流の場として市内外の方々に利用されています。こうした土地柄から、俳句愛好家や俳人たちが時折当館を訪れます。

標題句は一政先生愛用の壺に心を寄せた句ですが、「ああ、あの小さな壺ね」と思った方はかなりの通です!大高翔さん(「藍花」俳句会主宰)をお招きする「美術館句会」でも度々句材として取り上げられるこの壺。一政先生が蒐集初期にコレクションに加えられる逸品です。詩文をとおして詠まれた作品等に向き合うと、また発見があるかもしれません。(T)

白山市立松任中川一政記念美術館 館報 独行道 第三十四号

発行 2026(令和8)年3月

編集 白山市立松任中川一政記念美術館

〒924-0888 石川県白山市旭町61番地1

電話/FAX 076(275)7532

題字揮毫 中川一政(提供 北國新聞社)

